

日本バレーボール学会第24回大会報告

日本バレーボール学会第24回大会が、3月2日および、3日の2日間にわたり山梨学院大学甲府酒折キャンパスで「これからの課外活動におけるコーチングを考える」をテーマに開催されました。全国並びに県内から参加者は約100名が集まりました。また、本大会は公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（バレーボール）の更新に必要な研修として位置づけられ、15名が研修としても参加しました。バレーボールに関する科学研究とその発展に寄与し、バレーボール実践に資するとうい所期の目的を達成し、成功裏に終了致しました。

【開会の挨拶】



開会の挨拶は、山梨学院大学学長である古屋光司氏、日本バレーボール学会会長である河合学氏、そして第24回大会組織委員長である遠藤俊郎氏にご挨拶をいただきました。

【特別講演】



特別講演は、株式会社山梨中央銀行代表取締役会長である進藤中氏に、『地域経済活性化とスポーツ振興～山梨中央銀行の取り組み～』というテーマについて女子バレーボール部の誕生を踏まえながらご講演いただきました。行員が積極的に女子バレーボール部の活動をバックアップし、社内に一体感が醸成されました。企業の地域貢献としてスポーツの価値を認め、山梨県内の複数のスポーツ種目の支援を行っています。

2019年3月3日付 山梨日日新聞に掲載。

【シンポジウム】

平成 30 年 3 月にスポーツ庁が科学的根拠に基づいた運動部活動に関するガイドラインを示しました。運動部活動の運営や指導に関する問題は以前から取り上げられています。本シンポジウムでは『中学・高校におけるコーチングを考える』という古くて新しいテーマに挑み、将来のバレーボールコーチングのあるべき姿について議論を深めたいと考えました。司会には山梨学院大学の安田貢氏、演者には以下の 4 名に方々をお招きしてご講演いただきました。各演者が話題提供した後、フロアと質疑応答に移りました。

山田芳樹氏（山梨県教育庁スポーツ健康課 課長補佐）

笠野英弘氏（山梨学院大学 准教授）

アーマツ・マサジェディ氏（VC長野トライデンツ コーチ）

増村雅尚氏（崇城大学 准教授）



山田 芳樹氏

学校教育における部活動の位置付け・意義についてお話しいただきました。また、やまなし運動部活動ガイドラインは、子どもたちにとってよりよい環境での部活動の実施を目指している説明がありました。その中には思春期女子特有の疾患を見逃さないための主なサインが示されている事が特徴のひとつに挙げられます。

笠野 英弘氏

運動部活動は学習指導要領において「学校教育の一環」と記されているものの、それ以上は制度設計がなされていない説明がありました。楽しい活動である遊びの延長上に自己規律化という近代社会に求められる社会性を涵養していくことにつながっていく仕組みをスポーツ組織がつくる必要性を述べていました。そしてドイツやブラジルにおけるサッカーの事例から遊びと強化（競技スポーツ）の関係をもっと考えるべき提言がなされました。

アーマツ・マサジェディ氏

先ず、選手は賢い。選手をリスペクトし、信じることの重要性を述べていました。来日当時、ハラスメントだらけのバレーボールの世界であった実感を打ち明けていただきました。例え話として、10 プレイ中1 プレイ上手くでき、9 プレイ上手くできなかった場合、海外では上手く出来た1 プレイを褒めます。しかし、日本は上手く出来なかったプレイに焦点をあてます。コーチは選手に暴言などを吐いて選手の成長を阻害してはいけません。選手には前向きなフィードバックを与える必要性を主張していました。

増村 雅尚氏

スポーツバイオメカニクスについての説明がありました。そして指導の現場に活かすためにはスポーツバイオメカニクスの思考の重要性を挙げていました。セッターのトスを両サイドに上げるフォームを合成したり、ジャンプサーブの成功・失敗の映像を左右で対比させながら選手がどのように動いているのか、などの質問をフロアに行っていました。



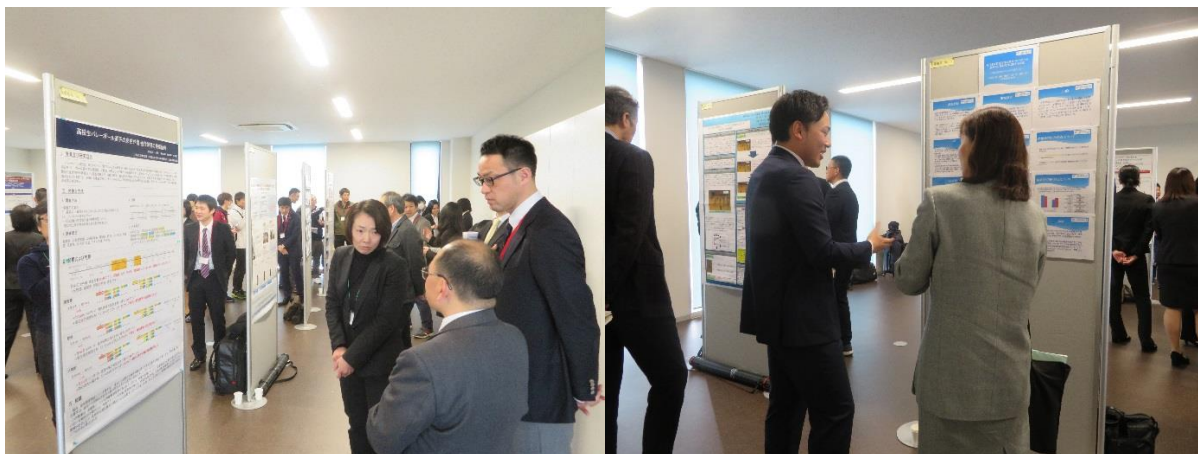
【総会】



2日目10時から総会が行われ、予算や決算、事業報告、計画の提案と承認がされました。

【一般研究発表】

一般研究発表では16演題のポスター発表があり、活発な質疑応答や意見交換が行われていました。
※発表抄録は学会HPで参照ください。

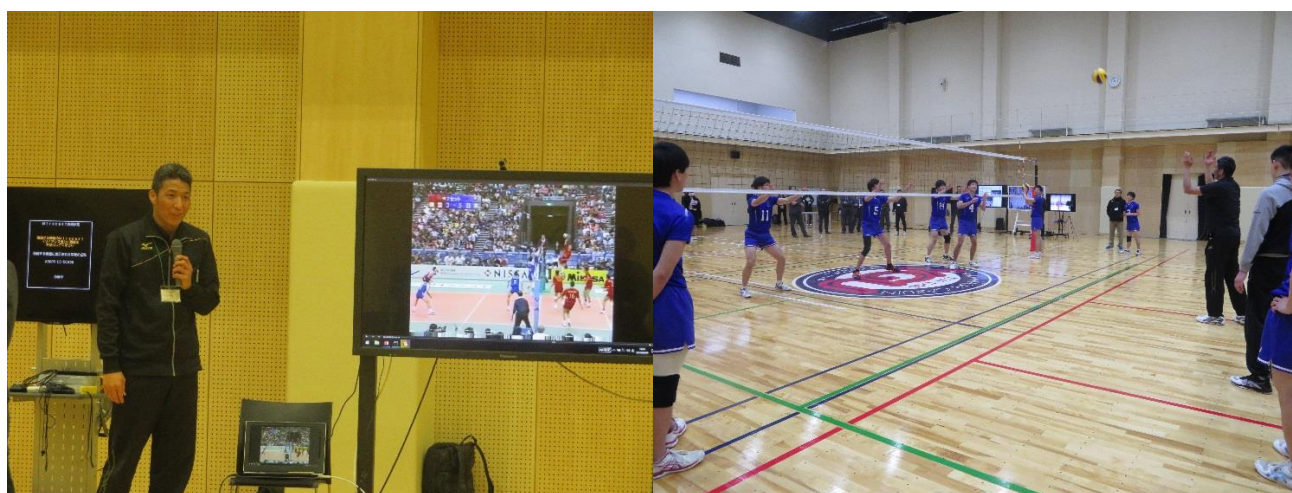


【オンコートレクチャー】

2日目午後からは体育館においてオンコートレクチャーが行われました。今回のオンコートレクチャーは『現場に活かせるスポーツバイオメカニクス』をテーマに司会 深澤智明氏、講師 増村雅尚氏、指定討論者 加戸隆司氏に行っていただきました。

今回は高価な測定機器ではなく、身近なタブレット端末などを活用して、即時的フィードバックがどのように対象者に活用できるのか、セッターのトス、ディグ、およびブロックについてモデルチームで実演してもらいました。

まず、単に対象者を撮影するのではなく、撮影位置（コートサイド、コートエンドなど）によって得られる情報が異なることの説明がありました。実際に学会参加者に市販のカメラで撮影してもらうなど参加型のレクチャーでした。また、アプリを用いて、練習に工夫を加えることやディレイ機能のアプリ「ReplayCam」を利用することによって自身のフォームチェックに活用できることも紹介されました。レクチャーでは増村先生自らボール出しをする場面も見られ、元全日本選手の片鱗をうかがわせてくれました。



【閉会の挨拶】



日本バレーボール学会副会長の黒川貞生先生より閉会の挨拶がありました。



学会大会に参加された皆様、2日間お疲れ様でした。

【文責】安田貢（第24回大会実行委員長・山梨学院大学）